静岡市

報道資料

（2026年11月18日発表）

11月22日 登呂博物館 国際シンポジウム「日韓における建物遺構の復元整備」

75年前、日本で初めて遺跡に復元住居が建てられた「登呂遺跡」で、日本と韓国の研究者・文化財担当者が、両国における建物遺構の復元の歴史や実践例を紹介するシンポジウムを開催します。史跡の保存と活用のため、これからの建物・遺構の復元に求められる視点や役割を考えます。

【趣旨・背景】

・史跡公園や博物館などに復元建物が建てられている光景は、現在では広く見られます。1951年に日本で初めて弥生時代の復元住居が建てられたのが登呂遺跡です。
・登呂遺跡では、2011年までの再発掘調査後の再整備において、発掘調査の成果に基づく復元建物に加え、遺跡の活用を目的とした復元建物も整備しています。
・本シンポジウムでは、日本の史跡整備の先駆けとなった登呂遺跡で、日韓両国の研究者・文化財担当者とともに、これまでの建物遺構の復元を振り返り、今後の史跡の保存と活用における復元のあり方を考えます。

【開催概要】

期間：2026年11月22日（日曜日） 9時30分から16時30分まで
会場：静岡市立登呂博物館1登呂交流ホール（駿河区登呂五丁目10番5号）
参加料：無料
内容：
基調報告（9時45分から14時45分まで 昼休憩あり）
①日本における「復元」の史的展開：建築の文化復元論
立命館大学教授 青柳 憲昌（あおやぎ のりまさ）氏
②登呂遺跡再整備事業における建物遺構復元の考え方と実践
静岡市立登呂博物館学芸員 岡村 渉（おかむら わたる）
③日本における建物復元における建築部材の把握と復元の実例
九州大学専門研究員 谷 直子（たに なおこ）氏
④韓国での建築遺跡復元の歴史
韓国伝統文化大学教授 韓旭（ハン・ウク）氏
⑤今までの松菊里遺蹟の遺跡及び遺構復元の流れと今後の方向
扶余郡文化遺産課学芸員 朴書賢（パク・ソヒョン）氏
報告者全員による討論（15時から16時30分まで）
主催：静岡市立登呂博物館・静岡大学登呂農耕文化研究所・東海大学人文学部
協力：韓国伝統文化大学校

【取材について】

事前の連絡は不要です。当日会場にお越しください。
車でお越しの場合は、博物館入口前の関係者用駐車場をご利用ください。

【問い合わせ先】

観光文化・市民局 歴史文化課（登呂博物館）、担当者：岡村、松原 電話：054－285－0476